

# りんご「春明21」の

## 貯蔵後に発生する やけ病の低減策

りんご研究所

りんご「春明21」は11月中旬収穫の晩生種で、長期貯蔵した後の4～6月に販売される“後期販売向け品種”です。しかし、貯蔵後に果皮が褐変するやけ病が発生し、外観を損なう果実が多くなることがあります。これまでの調査で、着色の不良な果実でやけ病の発生が多い傾向がみられました。そこで、反射資材を利用して樹冠\*の光環境を改善したところ、果実の着色が向上し、貯蔵後のやけ病の発生が低減できることが明らかになったので、紹介します。

\*樹冠：樹木の枝や葉が茂っている部分

### 果実の着色向上



反射資材を利用し、  
樹冠の光環境を改善



9月下旬～収穫期まで 反射資材を設置

### 全面着色した果実の割合が増加

着色面積  
100%の  
果実

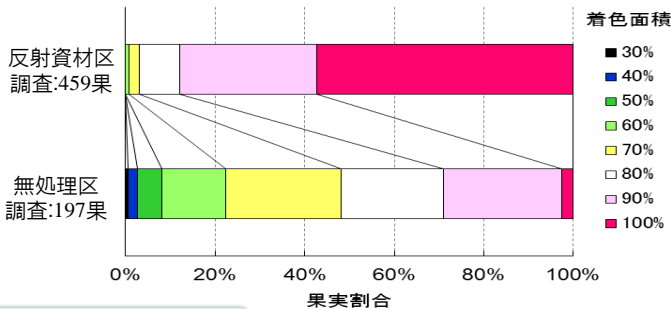


果実側面  
(赤道部)

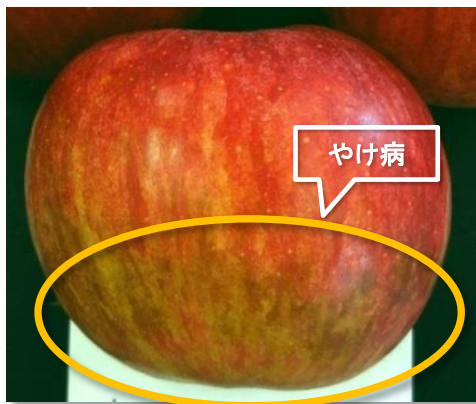


果実底面  
(がくあぶ)

供試樹：普通台樹

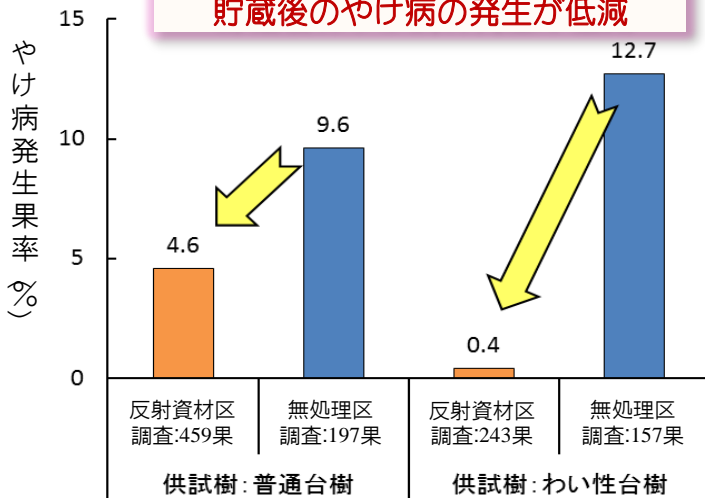


### 貯蔵後のやけ病の発生が低減



着色不良の場合：やけ病の発生多い

### 果実の着色が向上することで 貯蔵後のやけ病の発生が低減



お問い合わせ

りんご研究所 栽培部 (Tel0172-52-2331)